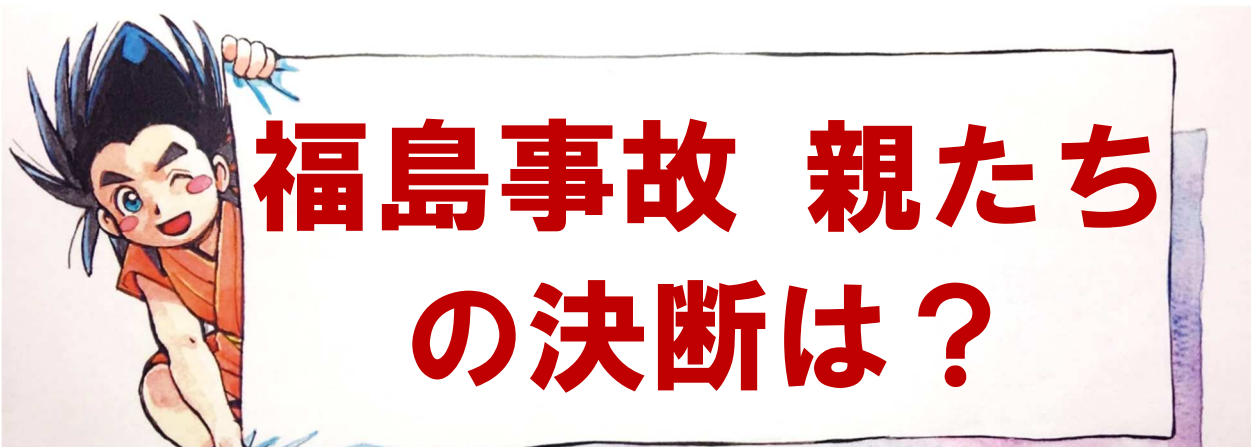




福島事故 親たちの決断は？

子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会 広報紙 2022 年 9 月号 (No.43)

2011年3月11日 被災した母たちが話してくれました

8月31日、2人の女性が寿都を訪れ、お話を聞かせてくださいました。現東川町議員の鈴木哉美(かなみ)さんと、福島県南相馬市で語り部をされている高村美春さん。鈴木さんは福島県郡山市で、高村さんは同県南相馬市で東日本大震災(大地震+大津波+福島第一原子力発電所事故→以下3.11と記載)を経験し、被災されました。

鈴木さんは震災直後、放射線被曝について一から調べて、一時東川町へ避難。その後いったん戻った郡山では「放射能に負けない子どもになろう」というスローガンが掲げられていて驚いたそうです。そこにいるしかなかった人々は「大丈夫」という言葉を信じて生活するしかなかったのでしょうか…。舞う砂埃で被曝の恐れもあるなか、サッカーの練習が行われたり、「県境を越えれば

大丈夫でしょ」と栃木で行った試合会場が、実は郡山と変わらない線量だったり、日々の余震や地鳴りにも悩まされ、子どもたちと東川町への再避難を決断されました。

高村さんは当時、福島原発から25kmの場所に住んでいながら、その距離を3.11まで知らず、地域で原発事故シミュレーションや避難訓練等1度もないなか、子ども3人と被災しました。山に避難して何度も押し寄せる津波を見たことも話してくれました。当時、埼玉に住んでいた放射能に知識のある家族に「100km逃げろ!」と言われて、子どもを避難させましたが、自分は介護の仕事に戻り、放射能汚染から逃れて家族や自分を守る為に、泣きながらも現場を離れる苦渋の決断をしたスタッフを見送り、仕事を続けたそうです。その後、山形県に避難するも2012年にウクライナへ、チェルノブイリ原発被災者と直接話をしたくて行ったそうです。その後も勉強を続け、子どもたちと南相馬市に戻る事を決意し、今に至ります。常に放射線測定を行う生活の中で「東電と国への恨みが活動の原点!」と言いながら語り部として、当時の地震・津波・原発事故・事故後のあらゆるおかしな国の対応について等を伝える活動を続けておられます。

子を持つ親として、当時お二人がそれぞれの決断をどんな想いでしたのか、自分だったら何が



出来ただろうとお話を聞きながら色々考えさせられました。

参加者の方も「福島のリアルが聞けて良かった」「被災した人が100人いれば100人違う話が

あるよと聞いて、本当にそうだよなと感じた」と、なかには涙を浮かべながら聞く方もいました。東川町と南相馬市からわざわざ寿都に来てくれたお二人、貴重なお話をありがとうございました。

オンライン
会議に参加

全国の皆さんに寿都の今を発信中

町民の会では、町内で町民の皆様に向けて様々な情報やイベントの発信を行ってきました。いま、寿都の町民の方々は声を出せずに苦しい思いをしています。私たちはその人たちに無理に声に出して欲しいとは思わないし、声を出せずにいる辛い環境や立場も理解しています。声を出せないのが悪いことではないと分かっています。むしろ、この小さな町の2800人だけで考えて答えを出すことなんかではないのです。

なので、私たちは、外へ外へ視野を広げ、後志・北海道・日本全国といった人々へ活動を知ってもらい、自分事として一緒に考えてもらえるように活動の範囲を広げていこうと考えました。そして、8月からいよいよ全国へ向けて活動を開始しました。

●8月11日「新時代アジアピースアカデミー」～なぜわが町で核ゴミ受け入れ？寿都の町民活動を知る～

本当に初めての全国に向けた発信でしたが、会員3人で事前に何度も打ち合わせを重ねたことで、大きなミスや緊張もなく寿都の現状を参加された皆様に発表することが出来ました。

●8月13日「広島ハチドリ舎オンライン講座」～高レベル放射性廃棄物 最終処分場候補地となった寿都町民のはなしを聞こう～

11日の2日後という事もあって気持ちに余裕はあったものの、事前の打ち合わせが足りずにうまくいかなかった点がいくつかありました。また、自分が発した言葉が、相手に伝わった時に違う解釈に受け取られてしまっていたことに気づき、勉強になったと共に、言葉で伝えることの難

しさを実感しました。

●8月21日幌延町での全国交流会～

これは実際に幌延町に行つての発表でした。参加者の中には去年の札幌でのイベントで私たちの話を聞いて覚えていてくれた方がいて、私たちに代わり、他の参加者さんへ向けて寿都で行われているくっちゃべる会について話してくれたのでした。これまで紡いできた活動が、確実に誰かの心に残り、自分事として考えてくれている方がいると、嬉しくなりました。

8月13日のオンライン講座に参加された福島県出身のお二人は「寿都に行きたい！行きます！」と言ってくれ、31日に本当に来ていただきました。1ページ目で紹介した鈴木さんと高村さんが、そのお二人です。寿都の美味しい食べ物ときれいな景色に喜んでいただきました。

町民の会では、引き続き、全国に向けて「寿都町の今」を伝えていく活動を行っていきます。応援よろしくお願いいたします。



水冷破碎岩は未調査 今後の調査が狙われる

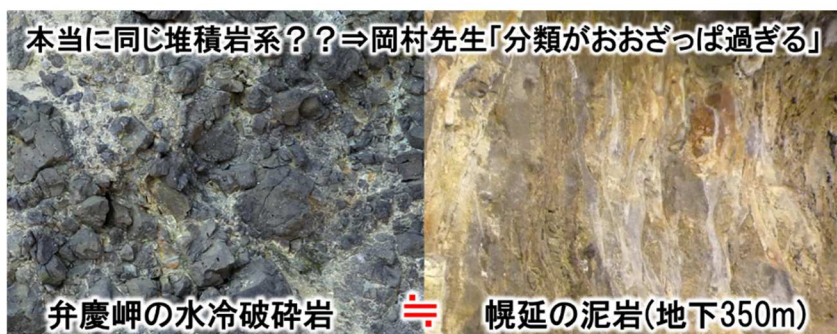
寿都町には、NUMO と役場が事務局を務める「町の将来に向けた勉強会」があります。この勉強会の一環で、7月24、25日に幌延町にある「幌延深地層研究センター」を視察してきました。

日本原子力研究開発機構は、「幌延深地層研究センター」で「堆積岩系」の地層処分研究を行い、岐阜県瑞浪市の「瑞浪超深地層研究所」では「結晶質岩系」での地層処分の研究を行っていました。2種類の岩盤で日本における地層処分の研究をカバーするという仕組みです。

私は疑問を抱きました。寿都町の岩盤は「水冷破碎岩」と呼ばれる、海底から噴き出したマグマが急速に海水で冷やされて固まった脆い岩石が良く目立つと言われています。「水冷破碎岩は結晶質岩系なんですか？」という質問に、解説員は回答できませんでした。後日、同じことを北海道教育大学名誉教授の岡村聡先生に質問したところ、「堆積岩と結晶質岩の2種類にしか分けていないことは、おおざっぱすぎる。寿都の水冷破碎岩は新第三紀火山岩・堆積岩に分類されている

ようですが、その性質について NUMO はほとんど検討対象にしていないということですね」と厳しく批判されました。そこで、第10回の「町の将来に向けた勉強会」で NUMO に質問したところ、「水冷破碎岩はどっちかという透水性の点で堆積岩系だと思う」「我々も水冷破碎岩は調べているわけではない」との回答が得られました。

地層処分は安全だと聞かされてきましたが、研究蓄積の結果からは寿都ではどうなのかハッキリ言えないことが分かりました。となると、今後は「分からないから調査させてください」という話になり、精密調査まで引き伸ばされるのではないのでしょうか？ 幌延での研究が延長された構図と同じです。現代の科学技術では10万年先まで見据えた地層の変化の予測には限界があることが多くの研究者が認めているところです。調査の先にあるのは「ベストは尽くしたので、最終処分場を建設させてください」という、NUMO と国からの申し入れではないのでしょうか？



チラシ配布について

町民の会のチラシは、配布ボランティアの皆さんのおかげで、ふたたび全戸配布が可能になりました。配布ボランティアの皆様にお礼申し上げます。また、引き続き、配布ボランティアを募集しております。チラシは美容室ミリアン、ペンションメロー、吉野商店など町内数ヶ所で配布もしております。事務局にご連絡いただければ、お渡しできます。

子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会

事務局 048-0401 寿都郡寿都町字新栄町 101-6

TEL/FAX : 0136-62-3630 kakugomino@gmail.com

HP : <http://kakugomi.no.coocan.jp/>

FB : <https://www.facebook.com/106569234530018/>

北海道銀行寿都支店(店番号 304)普通 0481374

ゆうちょ銀行 記号:19070 番号:44246811



2022年9月25日発行



子どもたちに **核**のゴミのない寿都を！ 町民の会

事務局：〒048-0401 北海道寿都郡寿都町字新栄町101-6
HP：<http://kakugomi.no.coocan.jp/> e-mail: kakugomino@gmail.com

～活動資金支援のお願い～

私たちは、寿都町への核のゴミの受け入れや、これに繋がる調査を阻止すること、未来ある寿都町をつくることを目的として活動しています。

世界から憧れの的として注目されるこの北海道の地に、核のゴミが埋められてしまわないためのご支援を賜りたく、心よりお願い申し上げます。

～ご寄付の使い道～

- ①核ゴミの受け入れにつながる問題の提起・調査反対の啓発活動
- ②勉強会・講師招集にかかる費用補填 など

下記の郵便振込口座または銀行口座へのご寄付をお願い致します。

ゆうちょ銀行 記号 19070 番号 44246811
北海道銀行寿都支店 (店番号304) 普通 0481374

